

## 特集

「砂防と治水」200号記念—平成の砂防と地域の明日を考える

# 静岡市清水大内地区における グリーンベルト事業の取り組みについて

- 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課, 静岡土木事務所 ●
- NPO 法人「森と水辺を育てる会」 ●

静岡市清水大内地区では、土砂災害に強い砂防樹林帯（グリーンベルト）を育て守る里親グループの育成と協働に努めています。ここでは、事業へ至る背景やグリーンベルト整備への取り組み状況、NPO法人「森と水辺を育てる会」の活動報告等を紹介いたします。

## 1. 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課

### 1) 事業の背景

平成7年1月の阪神大震災で、六甲山系では同時多発的な崩壊が発生し、土砂災害から市街地を守ることが課題となりました。これを契機に、市街地に隣接する山麓斜面に一連の樹林帯（グリーンベルト）の形成を図る都市山麓グリーンベルト整備事業が創設されました。静岡県では、土砂災害の危険箇所が364箇所と集中している静岡市北部市街地山麓において、平成8年度よりグリーンベルト整備事業を実施しています。

### 2) 基本理念とモデル地区について

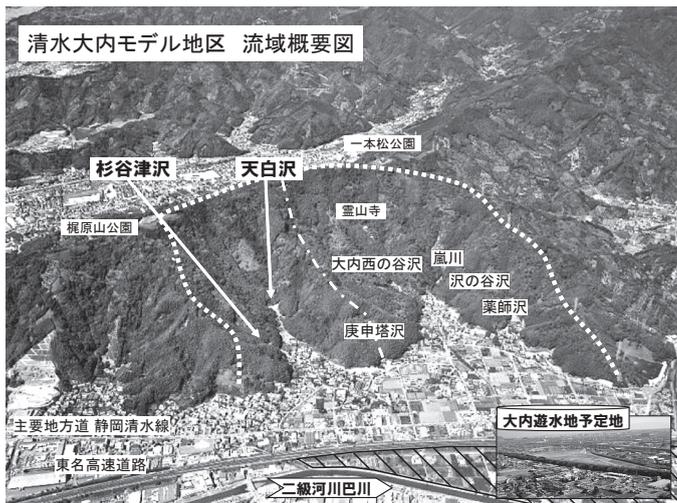
静岡市の「都市計画マスタープラン」に沿い、人々が「安心で、安全な」日々が送れるよう、地域の土砂災害からの安全性の向上に資する樹林帯を市街地北部山麓に形成し、併せて「快適な生活環境」「緑豊かな自然環境」の保全・整備を目指すことを基本理念としました。

「清水大内地区」は、①土砂災害の危険箇所が多く、その対策が望まれていたこと、②他の規制法令が無く、砂防関係事業が進められること、③果樹園の放棄地（放棄農園）および竹林が多く存在すること、④自然環境、景観保全上からの位置付けが高いことから、モデル地区として選定し、樹林帯の整備にあたってきました。

## 2. 静岡県静岡土木事務所企画検査課

### 1) 取り組み状況について

静岡土木事務所（以下、事務所）では、平成12～13年度にかけて、地元住民との意見交換会やワークショップなどを実施し、事務所と地元の双方にとって良好な樹林帯の整備・管理が行えるよ



清水大内モデル地区 流域概要図

う計画を立てました。その結果、「土砂災害を防ぐ里山づくり」を合言葉に、①土砂災害防止機能の強化、②快適な生活空間の確保、③緑豊かな自然環境の保全創出を柱として取り組みを進めていくことに決定しました。

平成14年度からは、事務所主催による作業会を開始し、活動のためのボランティア団体が立ち上がるまでに至りました。平成15年度には、地元主体による作業会へ移行し、以降、NPO法人「森と水辺を育てる会」（以下、「育てる会」）との協働により、8年間継続し樹林帯の整備・管理を行っています。

## 2) 土砂災害を防ぐ里山づくりについて

事務所では、清水大内地区にある8つの土石流危険渓流と6つの急傾斜地崩壊危険区域において、ハード整備を進め、平成22年度までに、全ての土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険区域への土砂災害対策施設の整備が完了しました。

対策施設の整備と合わせて、砂防堰堤の堆砂域から概ね直高30mまでの斜面の用地約23haを平成14年度までに買収し、平成13～16、20～22年度において緊急雇用創出事業により間伐作業等を実施してきました。モデル地区内の「杉谷津沢」及び「天白沢」では、里親グループである「育てる会」が行う、年間約20回程度の作業会に参加し、竹の伐採（間伐）、草刈り、植樹、遊歩道や通路・小段の整備などを行っています。

また、春の植樹祭や竹の子掘り、秋の竹細工教室、冬の門松づくりなど、「育てる会」が主催するイベントに参加した際、地元住民や子供たちにパンフレットを配布する等して、土砂災害意識の

啓発と普及を図っています。

## 3. NPO法人「森と水辺を育てる会」

—理事長・大木一範—

### 1) ボランティア活動の契機と意義について

グリーンベルト事業に携わるきっかけは、静岡土木事務所が清水大内地区の里山の育成を担うボランティア団体の育成を図ろうと、地元住民に呼びかけたことでした。

50年前（昭和30年後半）、私（大木）が小学生の頃、虫捕りや木の実や山菜を採ったりして、近くの山でよく遊びました。昭和50年代になると農産物を取り巻く経済環境の変化により里山の管理が放任され、繁殖力の旺盛な竹が他の樹木を衰退させ、気が付いた時には里山全体が竹林で覆われてしまいました。荒廃した里山を見ていると人の心まで荒廃してしまうように感じると同時に、取り返しのつかないような土砂災害が起きてしまうのではないかと不安でした。

こうした中、良い機会に巡り会うことが出来、早速「森と水辺を育てる会」を平成16年に立ち上げることにしました。「森」は土砂災害を防ぐグリーンベルトの里山、「水辺」は当地区を流れる巴川に総合治水対策として整備された大内遊水地を指します。その後、平成20年10月1日にNPO法人「森と水辺を育てる会」となり、現在39名の会員が活動しています。当会を中心に静岡県、公益財団法人オイスカ、一部事業を当会と一緒に行う地元の「高部わくわく少年教室」「わんぱくたかべ倶楽部」、協働事業を支援してくれる「清水西ロータリークラブ」「東京新都心ライオンズク



平成21年に完成した天白沢砂防堰堤



平成11年に完成した大内日向山急傾斜擁壁



大内遊水地全景



草刈り、竹の伐採



植樹



通路・小段の整備



遊歩道の整備



竹の有効活用（チップ）



竹の有効活用（竹細工）



竹の有効活用（竹炭）



住民参加（植樹祭）

ラブ」の皆さんと共に活動しています。

## 2) 活動内容について

活動を始めるにあたり作業道の整備を行いました。この作業道を頂上にある「梶原公園」への遊歩道として開放して欲しいとの要望があり、公園に来るハイカーに開放し、とても喜ばれています。その後、放置竹林の一部をタケノコの採れる竹林に整備し、他は花木（桜・ハクモクレン）、実の生る木（梅・蜜柑・栗）、地元里山にあった木（松・白樺・山桃）などを植樹し災害に強い健全な里山へと転換しています。

また、タケノコ掘り・竹筒でご飯焼き・門松作りのイベントを開催するほか、市・地元自治会・学校が開催するイベントにも積極的に参加し、土砂災害への理解と里山の大切さを発信しています。静岡市立清水高部小学校の総合学習の講師を務め、生徒と一緒に植樹や管理を行い始めました。子供たちも自然の中での活動を通し、環境教育や情操教育に大いに役立つものと確信しています。

このような活動も今年で8年目を迎え、社会から徐々に認知され、平成21年には当会が国土交通大臣から「土砂災害防止功労者」に表彰されました。また、静岡・愛知・岐阜・三重・長野の5県による「中部の未来創造大賞」の住民部門で優秀賞を受賞しました。



住民参加（竹の子掘り）



住民参加（門松作り）

## 3) 今後の活動に向けて

「里山づくり」と言ってもなかなか理解されず、人集めが一番大変でした。そして活動を始めてみると、活動資金をどう工面するかが課題になりました。また、斜面の傾斜がきついためどのように作業を進めたらよいか、作業をしても疲労ばかり増大し作業が進まない等、ジレンマに陥ることもしばしばありました。しかし、会員が知恵を出し合い、県からの助言や支援を得たり、外部の団体からの支援があったり、子供たちの参加があったりすることにより乗り越えてきました。里山づくりに多くの方が関わっていることがこの事業を推進させている要因だと思えます。当会は今後も柔軟な考え方を心がけより多くの方が参加出来るような活動を目指します。自然との調和に心がけた人にとって心地よい里山は、生物の多様性を育み災害に強い里山になると確信しています。